

ルカへ

日臺真澄

東京都・二二・学生

この手紙は、日本語で書きます。あなたの読めない日本語で書くなんて、アンフェアだとあなたは思うでしょうね。でも、私がそうせざるをえなかった気持ち、感じとって下さい。私は、一度でいい、私の言葉で気持ちを伝えられたのです。

ルカ、好きな女の子が現れたのですね。とうとう。一年も前から、ずっとそう知らされる日を恐れてきました。彼女でよかった。あなたが選んだ人が彼女のように優しい素敵な人でよかった。本当に素直にそう思います。彼女に嫉妬なんてしていいいよ。今は、ただ、ただやるせないのです。もし私がイタリア人なら、もしあなたの日常の中で出会えていたら。あなたの言葉、イタリア語であなたを理解してあげられたら。もし……。『もし』があふれ出して、ルカ、ごめんなさい。私、どうしていいかわからない。

「君は、大切な人だから、僕のために苦しまないで欲しい。この先もずっと大切なこ

とに変わりはないから」

そう言って、あなたは優しく永遠に私を拒絶した。あなたの正直さが、私に対する誠意だと分かっています。心配しないで。距離は、性格や相性と同じように「魅力」の一部だってこと、理解できるくらいには成長しました。ほめてね。ルカ。私だっていつも泣いているばかりじゃないよ。

それでも、ルカ。あなたを忘れられない。手紙を書いて下さい。一時間でも、一分でも一秒でもはやく、手紙を書いて下さい。あなたが誰を好きだろうとかまわない。遠い日本にいる私を忘れないで。私を忘れないで。

ルカ、もうあなたを好きだと書きません。困った顔をして私の手紙を折りたたむあなたの姿が想像できるから。ルカ、とても不思議です。日本語なのに、すべて伝えることができない。ルカ、これが最後。あなたを愛しています。 Masumi

*イギリスに短期留学中、イタリア人の男の子に恋をしました。先日、彼に好きな娘が出来たと聞きました。彼に送った手紙をそのまま、このコンクールに出しました。彼が私の気持ちを分かってくれるといいのですが。